

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第80号(201603)

発行 竹田 幸男



■ パナソニック松愛会寝屋川支部 結成40周年記念新春懇親会 同好会活動展示に参加

平成28年1月30日(土)松心会館で開催されました。各同好会はパネル、テレビ・プロジェクターを使っての発表を行い、当クラブもパネルに加えてテレビを使ってのPR映像で同好会活動を支部会員にアピールしました。

例会の窓

平成28年2月例会

日時：平成28年2月10日（水）

13:30～16:45

場所：産業振興センター5F 会議室（大）

出席者：天野 新井 佐伯 竹田 谷 田淵

欠席者1名 （50音順・敬称略）

例会次第

1. 報告・連絡・協議事項

(1) 会報 田淵さん

(2) 文化展・新春懇親会費用精算

2. 協議事項

(1) 第10回 寝屋川映像フェスティバル出品作品の検討

・出品作品の検討

・費用分担

・実施内容・運営方法に関する相談（司会等）

・2月14日に映像フェスティバルプロジェクトでプログラム編成会議を行う。
新井さん出席

(2) 松愛会寝屋川支部40周年記念行事、同好会展示内容の反省

・文化展は同好会のPRになったと思う。

・文化展に使ったテレビはもっと大きなもの使えば良かった。

・文化展・同好会展示共、次回このような行事があるときは、計画を立てて仕事を皆さんで分担して進めるように持って行きたい。

(3) 第4回文化連盟展（7月31日）について

3. 映写・研究発表

今日は全部映像フェスティバル出品作品を映写した。

(1) 新井さん 「田んぼアート」 10分

・人工音声のナレーションと本人のナレーションと同じ映像で2作発表されたが本人のナレーションの方がよかった。

(2) 谷さん 「立山御来光登山」 8分

・冒頭に昔の白黒写真を入れたのは良かった。団体行動だったので登山中は撮影が制約されたとのこと。御来光が見られたのはハッピーでした。

(3) 小笠原さん 「オオムラサキ自然観察会」

・最後の保護団体の主催者の感想は、文字でなく本人の話が聞けたら、もっと良かった。

(4) 竹下さん（遺作）「はないちもんめ」 二条城・醍醐寺 10分

・ご遺族の方をお願いして出品して頂くことにした。

(5) 竹田さん 「回想 ワルシャワ そしてポーランド」 9分25秒

・(質問) 火炎に包まれる場面はどのように処理されたか。

(答え) インサートのタイムラインに入れた炎の画面の不透明度を下げて写真に重ねた。

4. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等

(1) 小型テレビのような端末をもらったが、音声はMP3フォーマットでないと音が出ないという仕様なので、何とかならないか。

・MP3とはMpeg 1 Layer 3のことで圧縮率が高くファイルを小さく出来るのでポータブルオーディオなどによく使われている。無料でダウンロードできる変換ソフトなどが出ているので、それを利用しては？

5. 来月の定例会 3/9 13:30 (今の会場での最終利用)



先月号の天野さんの記事の中の「一泊旅行先」の表の一部が間違っていたので訂正します。

(誤)

	実施日	宿泊先	観光
第1回	2008年	3/22 - 23	神戸しあわせ村

(正)

	実施日		宿泊先	観光
第1回	2008年	3/22 - 23	神戸しあわせ村	日本庭園他

日記に挑戦して32年！

田淵健二

現役時代から日々の記録を残したいと思い「手帳」は1967年から続けているが、日記帳は中々続かない。

当初「家族日記」が面白いと思い一日用紙1枚に家族の名前を書きスタートしたが、家族から「何故日記を共用で書くのか！」と総スカンくらい結局続けたのは私だけ面白いと思ったのだが・・・残念! 結局1年で止める。

次ぎの年度から5年日記に挑戦! 2冊目から3年日記に変えたが仕事が忙しくぬける日が多く 何度も止めようと思ったが、続けることに意義を感じた。

3年・5年日記の場合去年の今日は何があったなど分かるので、思いを新にする事多く日記を書くことの楽しみが増えたように思う。

2001年より高橋書店の「大型10年 当用新日記」に挑戦! 記入欄は4行で1行は主に行事・出来事を記入し、3行の蘭は主な内容と思いを記入している。

保管スペースも少なく、年頭の所感・月間予定表など有り これらの活用の他、主な出来事を新聞などから切り抜きして その日の蘭に貼り付けるなど 何時 何があったのか 主な内容はどうだったのか ひと目で分かるため 活用効果大である。

早く 10年日記に挑戦しておれば良かったと反省している。

年を取ってきたので、日々完結・整理整頓など 何事も後に廻さず着実にこなしてゆく事に頑張っている 今日 この頃である。

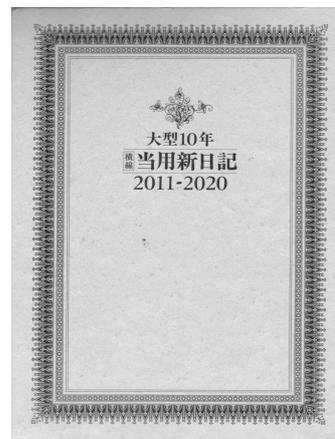
* 日記帳の他 活用できる項目

- 年頭のの所感
- 2 構想 (年度別・月別)
- 月間予定 (実績含む)
- 4 年末の所感
- 5 10年間の記録 (年度別に8項目)
- 6 自由メモ (18頁)
- 7 住所録 (1頁18名で 180人分)
- * 別途管理 (手書きで、28年間年賀状管理・各種会管理出切るもの)

(注) NOの○は活用している項目

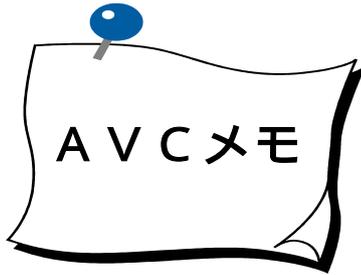
* 参考資料

- * 常用漢字表
- * 年齢早見表
- * 歴史年表 (日本史・世界史)
- * 路線図 (大阪・東京)
- * 地図 (日本・世界)



～ 皆さん10年日記に挑戦されては如何ですか! ～

色 補 正 の 罫



竹 田 幸 男

日本を縦断する映像発表会での経験、既に亡くなられたある人の作品が特異な色調になっていることに気が付いた。全体に青から紫にかけての色合いが強く、何とも不思議な色調になっている。そのとき、この色は自分の作品も、ある時期そのような色調であったことを思い出した。白内障の度合いが進んだ頃、編集した作品の色調がおかしいと気に入らず、自分なりの記憶色を出そうと、懸命に色補正をしていた。そうして白内障の手術を終え、周囲の物すべての色が、手術前と全く違う色に見えてきたとき、今まで懸命に色補正して作ってきた作品を見て、まさに先の映像発表会で見たのとそっくりな特異な色調になっていたことに気が付いた。

すなわち、目の感じる色調が、白内障の進行によって変化していることに気が付かず、カメラやモニターの色がおかしいと思い込み、自分なりの記憶色に合うように補正を繰り返していたものであった。だから正常な目の持ち主には、私の作品は異常な色調に見えたことだろう。本当は色補正などする必要が無かった映像だったかも知れない。その後、その当時に作った色調の異常な作品は、手術後の自分の目に合わせて、色を補正し直した。その色調が正しいかどうかは、正常な目の持ち主に見てもらわなければわからない。しかし、他の人の目が、必ずしも正しい色を見ているわけでもないと思う。カメラの性能を信じて、色補正などしない人は、このような失敗をする恐れがない。少しでも良くしようという欲が、かえっておかしな方向に進んでしまったものと、今では感じている。

同じようなことが音についても起こるかも知れない。難聴が進んでくると、特に高音が聞こえにくくなると言われている。そうすると、周波数特性をいじって高音を持ち上げた音が、正しい音だと思える人が出てくるかも知れない。しかしその音は、正常な聴覚を持った人には高音が強調されて聞くに堪えない苦痛を与える音になっているかもしない。時たま発表会で出くわす作品には、中にはそのようなものがあるかも知れないと思っている。大切なことは多くの人に見、聞いてもらってそのようなことが起こっていないか意見を聞くことが必要では無いかと思う。